

高座神社句碑 (丹波市青垣町東芦田)



で、虫が
桑で吹かる、
秋の風

雉子鳴けり
少年の朝
少女の朝

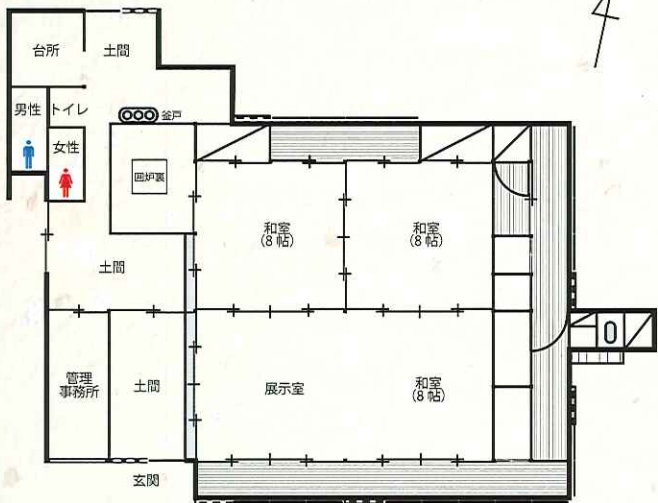


黎明館句碑 (旧柏原高等女学校)

芦田小学校校歌
土の恵みの香の中に
健やかにこそ生、立て
学びの道の身一歩
あゆむが芦田小学校
春は霞のま月垣山
せうと云ふまで虫さかなる
秋は黄金の稲の波
知恵のみのりのたにかなり
強く平き心身を
明日の希望にきたえつ
若木のむどりあふれども
あゝわが芦田小学校

芦田小学校校歌作詞 (直筆)

屋内見取図



交通のご案内



電車で (JR 大阪駅から福知山線〜タクシー・バス利用)

大阪駅	福知山線	柏原駅	タクシー 30分
	特急 1時間 20分 (快速 1時間 50分)		バス 40分

タクシー・バスをご利用の方は、下記へ直接お問合せください。

【タクシー会社 (市外局番 0795)】
 青垣タクシー ☎87-0291 柏原神姫タクシー ☎72-0403 播丹交通 ☎77-0175
 氷上観光タクシー ☎82-0449 氷上交通 ☎82-6644 八千代タクシー ☎82-1011
 【バス運行会社】
 神姫グリーンバス (篠山市) ☎079-552-1157
 柏原駅 → 佐治・青垣住民センター行「東芦田口」バス停下車 徒歩 20分

車で (大阪〜丹波市・有料道路使用)

神戸 JCT	中国道	吉川 JCT	舞鶴若狭道	春日 JCT	北近畿豊岡道	青垣 IC	県道
	10分		40分		20分		10分

北近畿豊岡道青垣 IC より 10分 (県道 7号 ~ 109号) 駐車場完備 (無料)

開館時間 10:00 ~ 16:00 (入館は 15:30 まで)

入館料 一般 [16歳 (高校生) 以上] . . . 200円
 中学生以下 無料

※丹波市及び丹波市が支援する団体等が主催する行事や丹波市内小中学校が学校行事又は授業等で入館される場合は入館料を免除します。

見学申込 見学・入館は予約制です。見学を希望される場合は希望日の前日までにお申込みください。

申込窓口 丹波市まちづくり部文化・スポーツ課 (春日文化ホール内)
 TEL 0795-74-1050 FAX 0795-74-2855

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)
 年末年始 (12月29日 ~ 1月3日)

丹波市俳人 細見綾子生家

〒669-3801 兵庫県丹波市青垣町東芦田 1476

【問合せ・見学申込窓口】

丹波市まちづくり部文化・スポーツ課 (春日文化ホール内)
 〒669-4192 兵庫県丹波市春日町黒井 496 番地 2
 TEL 0795-74-1050 FAX 0795-74-2855

丹波市俳人 細見綾子生家

で、虫が 桑で吹かる、 秋の風

雉子鳴けり 少年の朝 少女の朝



細見綾子 略年譜

明治40年(1907) 兵庫県水上郡芦田村東芦田(現・丹波市青垣町)に父・細見喜市、母・どりの長女として生まれる。
 大正9年(1920) 父・喜市病死。
 大正12年(1923) 柏原高等女学校卒業。日本女子大学文科学科に入学。
 昭和2年(1927) 日本女子大学卒業。太田庄一(東大医学部助手)と結婚。
 昭和4年(1929) 夫病没。母・どりと病没。帰郷後病を得て長い療養生活を送る。
 医師のすすめにより俳句を始め、松瀬清々主宰『俳句』に投句。
 昭和9年(1934) 池田市石橋に仮寓。
 昭和13年(1938) 池田市から丹波へ戻る。
 昭和17年(1942) 第一句集『桃は入重』刊。
 昭和18年(1943) 沢木欣一(お6句集『雪白』の原稿を受け取り、欣一の出征を見送る。翌年、句集『雪白』を刊行。
 昭和20年(1945) 沢木欣一が復員の帰途、丹波に寄る。
 昭和21年(1946) 全沢にて『風』創刊、同人となる。
 昭和22年(1947) 沢木欣一(東京芸大教授)と結婚、金沢市に居住。25年長男出生。
 昭和27年(1952) 第二句集『冬番盛』刊、茅舎賞受賞。
 昭和31年(1956) 武蔵野市に移り住む。第三句集『雉子』刊。
 昭和34年(1959) 第一随筆集『私の歳時花』刊。
 昭和40年(1965) 母校芦田小学校の校歌作詞。
 昭和46年(1971) 金沢市尾山神社に『鶴頭を 三尺離れ もの思ふ』の句碑建立。第四句集『和語』刊。
 昭和49年(1974) 第五句集『伎藝天』刊。翌50年『伎藝天』により芸術選奨文部大臣賞受賞。
 昭和53年(1978) 第六句集『曼陀羅』刊。翌54年『曼陀羅』により蛇笏賞受賞。第二随筆集『花の色』刊。
 昭和55年(1980) 俳人協会会報中回の二頁として掲載。
 昭和56年(1981) 俳人協会会報中回の二頁として掲載。
 昭和57年(1982) 俳人協会会報中に就任。
 昭和60年(1985) 『奈良百句』刊。石川県寺井町の新田祐久宅に『古丸谷の 深もろともも 雁の願』の句碑建立。
 昭和61年(1986) 皇居歌会場に臨席。滋賀青垣町高屋神社に『さぶが 桑で吹かぬ、 秋の風』の句碑建立。
 平成元年(1989) 第七句集『存問』刊。
 平成2年(1990) 三重県伊賀町の芭蕉公園に『芋輪刈りに そばへが通り 芋が出し』の句碑建立。
 平成4年(1992) 沢木欣一編の評釈集『細見綾子俳句鑑賞』刊。第八句集『天然の風』刊。
 平成6年(1994) 第九句集『虹立つ』刊。
 平成7年(1995) 母校柏原高等女学校跡(現・黎明館)に『雉子鳴けり 少年の朝 少女の朝』の句碑建立。
 平成8年(1996) 第四随筆集『武蔵野歳時記』刊。第十句集『牡丹』刊。
 平成9年(1997) 九月六日、心不全のため永眠九十歳。墓所は、東京都府中市田島山善原寺。
 平成18年(2006) 愛知県犬山市の名鉄天山ホテル庭内に『未曾用を 見おろして城 牙を返る』の句碑建立。
 平成26年(2014) 『細見綾子句集』刊。

生家の概要

丹波市で生まれ育った俳人細見綾子の生家は、平成27年7月に遺族の方から生家の土地建物と、今後の永続的な施設管理並びに市の文化振興に寄与するために1億円の寄附をいただきました。

生家の活用については、俳人細見綾子の顕彰を行うとともに文化的価値を地域資源として活かし、丹波市民の芸術文化の向上及び発展に資することを目的として、平成29年度に現状の趣を残しつつ見学用施設としてリノベーション改修を行いました。



橋本照嵩 撮影

細見綾子

【丹波市観光100選】歴史上の偉人部門選定
 細見綾子は明治40年丹波市青垣町東芦田に生まれました。

日本女子大学を卒業後、結婚しますが若くして両親、夫を亡くしました。その後、自らも病魔と闘い療養生活を送りました。

俳人松瀬清々に師事し、その後俳句の世界で頭角を現していました。俳人の沢木欣一と結婚して、多くの俳句を詠みました。綾子の句は、丹波への望郷の思い込めた作品が多いと言われています。

昭和54年、俳句の世界では最高の賞とされる『蛇笏(だこつ)賞』を受賞し、平成9年6月6日90歳でその生涯を終えています。



常設展示物等

- 『芦田小学校校歌』和額 (直筆)
- 俳句短冊 (直筆)
- 地元関連有名俳句の掛軸・額 (直筆)
- 句集『雪白』の原稿 (欣一直筆)
- 細見綾子生い立ち写真等

